

2016年度活動報告

フランス文学教室／フランス語圏文化論教室

1. フランス文学教室の活動

〈2016年〉

4月5日 フランス語圏文化論教室オリエンテーション（学部・大学院合同）

8月4日 卒論中間報告会 第1回

10月26日

研究集会「フランス文学と愛」

Journée d'études : La littérature française et l'amour

場所 = 首都大学東京 国際交流会館・中会議室

（第二部のみ「レストラン・ルヴェソンヴェール南大沢」）

主催：教育改革推進事業「国際性を育む分野横断的な「比較文学」教育プログラム」、
科研費基盤C「17-18世紀フランス文学における「恋愛論争」の間テクスツ的研究」

第一部 恋愛論の源流へ

趣旨説明：藤原真実（本学教授）

講演「イタリア・ルネサンス期の人文主義者マルシリオ・フィチーノとプラトニック・ラブ」
ジョスラン・グロワザール（本学准教授）

司会：西山雄二（本学准教授） コメント：ジゼル・ベルクマン（国際哲学コレージュ）

第二部 レクチャー・コンサート：「フランス音楽と愛」

レクチャーと歌唱：大久保康明（本学教授） ピアノ伴奏：鈴木麻純（本学学部生）

第三部 フランス18世紀小説と愛

講演「激情的な愛から昇華された愛へ—『マノン・レスコー』と『新・エロイーズ』」
ジゼル・ベルクマン（国際哲学コレージュ）

司会：西山雄二 コメント：藤原真実

通訳：クリス・ベルアド（本学助教）

10-12月 連続国際セミナー「文学と愛」

場所 = 首都大学東京（南大沢） 本部棟 2階特別会議室／国際交流会館中会議室

司会 = 西山雄二（フランス文学）

使用言語：英語あるいはフランス語、日本語訳を配布

主催 = 平成28年度首都大学東京・教育改革推進事業「国際性を育む分野横断的な「比較文学」教育プログラム」

2016年10月26日

「激情的な愛から昇華された愛へ——『マノン・レスコー』と『新・エロイーズ』」

講演者 = ジゼル・ベルクマン Gisèle Berkman（フランス、国際哲学コレージュ）

コメント = 藤原真実（フランス文学）

「イタリア・ルネサンス期の人文主義者マルシリオ・フィチーノとプラトニック・ラブ」

講演者 = ジョスラン・グロワザール（フランス文学）

コメント = ジゼル・ベルクマン（国際哲学コレージュ）

2016年11月16日 「愛の悪霊」

講演者 = ダリン・テネフDarin Tenev（ブルガリア、ソフィア大学）

コメント = 山本潤（ドイツ文学）

2016年11月30日 「愛の地政学 ——『蝶々夫人』の変身」

講演者 = デンニツァ・ガブラコヴァ Dennitza Gabrakova（中国、香港城市大学）

コメント = 荒木典子（中国文学）、大杉重男（日本文学）

2016年12月21日

「『愛せ、さもなくば去れ』？ マグレブ系フランス人による文学からの回答」

講演者 = 下境真由美（フランス、オルレアン大学）

12月1日 卒論中間報告会 第2回

〈2017年〉

2月2日 卒論公開審査

2. 卒業論文題目一覧

池下京佑「男性服におけるジェンダーレス化の浸透要因」

石渡泉「フランスにおける日本アニメの受容」

鈴木麻純「ボードレールにおける「匂い」」

三浦将「日仏女性労働者の満足度比較による日本の女性労働者の理想の労働環境の考察」

堀裕征「暴力の連鎖から脱出するための非暴力と愛」

3. 教員・大学院生の研究活動

(書籍、論文、翻訳、学会発表など)

大久保康明

[論文]

- ・「これまでのフランス語教授の場を振り返り」、『首都大学東京教職課程紀要』、第1号、2017年、25-32頁。

[演奏発表]

- ・「オペラ・ガラコンサート」(プッチーニ『ラ・ボエーム』(Puccini, La Bohème) 男声二重唱など)、シュトラウス企画、大田区民プラザ小ホール、2016年5月8日
- ・グノー「ヴェネツィア」; マスネ 歌劇『ル・シッド』より「裁き手にして至高の父よ」(Ch. Gounod, Venise; Massenet, O souverain, ô juge, ô père (Le Cid))、グループ・ベアレ・ムジカ定期演奏会、武蔵野音楽大学パルナソス多摩シューベルト・ホール、2016年6月5日。
- ・「フランス歌曲と愛」(研究集会「フランス文学と愛」第2部: レクチャー・コンサート、フランス歌曲7曲および解説)、首都大学東京国際交流会館、2016年10月26日

藤原真実

〔論文〕

« *Les Difficultés sur la religion et Le Militaire philosophe* », *La Lettre clandestine* n°24, Classiques Garnier, p. 287-295.

« L'anonymat et la paternité de l'œuvre en 1713 », G. Artigas-Menant & C. Dornier (eds), *Paris 1713: l'année des Illustres Françaises*, Actes du 10ème colloque international des 9, 10 et 11 décembre 2013 organisé à l'initiative de la Société des Amis de Robert Challe à la Bibliothèque de l' Arsenal et en Sorbonne, Peeters, « *La République des Lettres* 64 », p. 295-307.

「フランス語検定試験3級・準2級対策授業の取り組み」、『首都大学東京教職課程紀要』、第1号、2017年、99-110頁

〔翻訳〕

ガブリエル＝シュザンヌ・ド・ヴィルヌーヴ『美女と野獣 [オリジナル版]』白水社、2016年、全174頁。

ジョスラン・グロワザール「イタリア・ルネサンス期の人文主義者マルシリオ・フィチーノとプラトニック・ラブ」、『人文学報』513-15号、2016年3月、347-360頁。

〔その他〕

(解説)「目に見えないものを愛する力」、劇団四季『美女と野獣』京都公演プログラム、2016年11月、26-27頁。

「訳者あとがき」、ガブリエル＝シュザンヌ・ド・ヴィルヌーヴ『美女と野獣 [オリジナル版]』白水社、2016年、163-173頁。

「恋愛論の源流へ」、研究集会『フランス文学と愛』解説、『人文学報』513-15号、2017年3月、341-346頁。

西山雄二

〔書籍〕

Imagining an Abandoned Land, Listening to the Departed after Fukushima, Lambert, 2016, 100p.

Rue Descartes, N° 88, 2016/1, « *Philosopher au Japon aujourd'hui, après Fukushima* », Yuji Nishiyama (dir.), 161p. (Yuji Nishiyama, « *Philosopher au*

Japon aujourd'hui, après Fukushima », pp. 1-7; « Imaginer la terre abandonnée, prêter l'oreille aux disparus après Fukushima », pp. 8-31; « Entretien avec Osamu Nishitani: Penser la condition existentielle de l'humanité au XXe siècle », pp. 99-127.)

齋藤元紀、澤田直、渡名喜庸哲、西山雄二編『終わりなきデリダ——ハイデガー、サルトル、レヴィナスとの対話』、法政大学出版局、全406頁。(西山雄二「はじめに」、3-7頁;「ポスト実存主義者としてのジャック・デリダ」、201-219頁。)

Université ou Anti-Université. Les humanités dans l'idée de formation supérieure, éd. Paolo Quintili, Carlo Cappa et Donatello Palomba, L'Harmattan, 2016, 214p. (Yuji Nishiyama, « L'université comme voyage inconditionnel. La question du lieu dans la réflexion de Jacques Derrida sur l'université », pp. 15-35.)

[論考]

「シャンソンによるフランス語学習法」、『首都大学東京教職課程紀要』、第1号、2017年、91-98頁。

“What remains of Philosophers' Reflections on University?”, *Tetsugaku: International Journal of the Philosophical Association of Japan*, No. 1, 2017 (forthcoming) .

[翻訳]

ジャック・デリダ『獣と主権者 II』西山雄二・亀井大輔・荒金直人・佐藤嘉幸訳、白水社、2016年、全426頁。

ジャック・デリダ「出来事を語ることのある種の不可能な可能性」西山雄二・亀井大輔訳、齋藤元紀ほか編『終わりなきデリダ』、法政大学出版局、2016年、9-41頁。

ジャック・デリダ『嘘の歴史』西山雄二訳、未来社、2017年、全120頁。

パトリック・ロレッド『ジャック・デリダ——動物性の政治と倫理』西山雄二・桐谷慧訳、勁草書房、2017年、全152頁。

アレクサンドル・コイレ「嘘をめぐる省察」西山雄二・大江倫子訳、『多様体』第1号、近刊予定。

[学会発表]

招待発表 “What remains of Philosophers' Reflections on University?”, インターナ

シヨナルセッション “Philosophy and the University”、日本哲学会第75回大会、京都大学、2016年5月14-15日。

司会・発表、「Workshop ジャック・デリダ『獣と主権者 II』を読む」、東京大学（駒場）、主催＝脱構築研究会、2016年7月30日。

招待発表 “What remains of Philosophers’ Reflections on University? ”, UTokyo-NCTU Summer Camp “Imagining the Possibilities of the University and Civil Society from East Asia”, 東京大学（駒場）、2016年9月8-11日。

招待発表 « Politiques du mensonge chez Derrida et Levinas », DERRIDA-LEVINAS Une alliance en attente de politique, Sapienza-Università di Roma, 17-18 octobre 2016.

コメント、『脱原発の哲学』合評会、慶應義塾大学、2016年11月11日。

主宰・司会、連続国際セミナー「文学と愛」（全4回）、首都大学東京、平成28年度首都大学東京・教育改革推進事業「国際性を育む分野横断的な「比較文学」教育プログラム」（研究代表者）、2016年10月26日、11月16日・30日、12月21日。

〔その他〕

「訳者解説」、ジャック・デリダ『獣と主権者 II』 西山雄二・亀井大輔・荒金直人・佐藤嘉幸訳、白水社、2016年、361-373頁。

書評「カトリヌ・マラブー『新たなる傷つきし者』」、『週刊読書人』2016年9月23日号、4頁。

「解説」、パトリック・ロレット『ジャック・デリダ——動物性の政治と倫理』 西山雄二・桐谷慧訳、勁草書房、2017年、139-151頁。

ジョスラン・グロワザール Jocelyn Groisard

Mixis. Le problème du mélange dans la philosophie grecque d'Aristote à Simplicius, 320 p., Les Belles Lettres, Paris, 2016.

〔論文〕

“Empedocles on Mules’ Sterility —A philological and philosophical note—”, 『フィロロギカ（古典文献学研究会）』, No.11, p. 21-30, 2016年。

« Stéréotypes et rencontre interculturelle. Exemple de séquence pédagogique sur les règles de la communication en France et au Japon », 『首都大学東京教職課程

紀要』、第1号、2017年、127-135頁。

« Enseigner Robert Bresson. Étude de cas pour une pédagogie de l'analyse filmique », 『首都大学東京教職課程紀要』、第1号、2017年、111-118頁。

« Initier à la dissertation en classe de FLE. Problèmes et solutions spécifiques aux étudiants japonais », 『首都大学東京教職課程紀要』、第1号、2017年、119-126頁。

ジョスラン・グロワザール「イタリア・ルネサンス期の人文主義者マルシリオ・フィチーノとプラトニック・ラブ」藤原真実訳、『人文学報』513-15号、2016年3月、347-360頁。

"Hybridity and Sterility in Aristotle's Generation of Animals", in D. LEFEBVRE and A. FALCON (éd.), *Aristotle's Philosophy and the Generation of Animals*, Cambridge University Press, 2017 (forthcoming).

[発表]

« Marsile Ficin et l'amour platonique/ (néo-) platonicien », 研究集会「フランス文学と愛」、首都大学東京、2016年10月26日。

クリス・ベルアド Chris Belouad

[翻訳]

Saeko Kimura, « La littérature après Fukushima », trad. par Kazuhiko Adachi et Chris Belouad, *Rue Descartes*, n° 88, Collège international de philosophie, 2016, pp. 32-47.

« Entretien avec Osamu Nishitani: Penser la condition existentielle de l'humanité au XXe siècle », trad. par Kazuhiko Adachi et Chris Belouad, *Rue Descartes*, n° 88, Collège international de philosophie, 2016, pp. 99-127.

[連載]

「Le Nouveau Labo-translation plus ~もっともっと仏作文ラボ!」(全12回)、『ふらんす』、白水社、2016年4月~2017年3月、毎号3頁。

[その他]

書評: *Cultures d'empires. Échanges et affrontements culturels en situation coloniale*, de Romain Bertrand, Hélène Blais et Emmanuelle Sibeud (Éditions Karthala,

2015), *Historiens & Géographes* n° 434 (avril-mai 2016), Association des Professeurs d'Histoire et de Géographie, mars 2016, pp. 237-238.

大江倫子（博士課程）

〔翻訳〕

アレクサンドル・コイレ「嘘をめぐる省察」西山雄二・大江倫子訳、『多様体』第1号、近刊予定。

〔学会発表〕

「後期デリダにおけるハイデガーの遺産相続（1）——「ハイデガーの耳」と責任、贈与」、日仏哲学会秋季研究大会、学習院大学、2016年9月10日。

「最晩年デリダにおけるハイデガーの遺産相続（1）——『獣と主権者』第2巻と存在論的主宰Walten」、日仏哲学会春季研究大会、立命館大学、2017年3月18日。